

神はいないのか？

詩編一〇編

8  
(日)

主よ、なぜあなたは遠く立ち 苦難の時に身を隠されるので

すか。(一)

3/

「神などいない」(4) どうそぶく悪しき者たちを前に、不条理な苦しみにあっていた詩人は神に向かって叫びます。今日の聖句にあるように、詩人の心の中に、神はいったい何をしておられるのか、なぜ沈黙しておられるのかという疑問が湧いてきました。悪しき者たちが語る言葉が、神を信じる者たちの心にも湧き上がることはあるのです。神に祈りつつ不条理の現実を見つめ続けるうちに、詩人が悟ったことは、苦しみ嘆く者たちを見つめておられる神の姿でした。「あなたは苦しみと悩みをご覧になり 御手によって救おうと顧みてくださる」(14)。神は決して忘れてはおられなかったのです。神は今も生きて、神を信じる者たちの叫びを聞いておられます。「神はおられないのか」という疑いに囚われるとき、その私たちをじっと見つめておられる神を見上げようではありませんか。